

<h1>そだて</h1> <p>第278号</p>	小千谷市 青少年育成センター	〒947-0031 小千谷市土川1丁目5番53号 Tel 0258-82-6750 Fax 0258-82-6750 相談専用電話 0258-82-6771 e-mail: s-center@city.ojiya.niigata.jp URL http://www.city.ojiya.niigata.jp/
---------------------------	-------------------	---

故郷と私

弁護士 水内基成

私の実家は小千谷市内の専業農家です。米や野菜、昔は葉タバコも生産しており、子どもの頃は休みのたびに手伝いに駆り出されました。決まった休日があるサラリーマン家庭を子ども心に羨ましく思っていたものです。そんな子ども時代のヒーローはPL学園～西武ライオンズ時代の清原で、高校まで野球に打ち込みました。



弁護士をめざしたのは大学に入ってからでした。文系で「つぶしが利く」という理由だけで法学部に進学した時点では公務員になるのかと漠然と思っていたのですが、弁護士で当時活躍していた中坊公平さんのイメージから、社会で弱い立場におかれた人のために弁護士として働きたいと思うに至りました（と書くと何やら立派ですが、当時の彼女（妻）が先に司法試験の勉強を始め、負けられないと思ったのが直接のきっかけでした。）。

いざ弁護士の仕事を始めてからは、新潟市内で開業し住まいも得たため、決まった帰省は盆正月くらいですが、故郷の四季の風景に心癒され、仕事モードから完全に逃避しています。以前は若干わずらわしく思っていた田舎の親戚付き合いや近所付き合いも、近頃はそのありがたみが年相応にわかってきた気がします。また、中学校の時の先生から憲法についての講師を頼まれたり、この「そだて」への寄稿自体も同級生のお父さんから警察ボランティアの講師を頼まれたことをきっかけにしていたり、故郷小千谷との縁が人とのつながりを通じて続いていることをありがたく思っています。

このように改めて振り返ると、農作業や野球で培った基礎体力、子ども時代にお世話になった人との縁、これらは何にも勝る宝だと思えてきます。

私は、弁護士業務の上では子どもの人権を注力分野の一つとして取り組んでいます。児童虐待、子どもの貧困、いじめ、SNSトラブル、諸外国に比して高い若者の自殺率など、困難な時代にあって生きづらさを抱える子どもや若者に接する機会が多くあります。

これからも、今を生きる子どもたちにとっての故郷の一部を構成する大人であり続けられるよう、子どもたちを誉め、励まし、関わり続けていきたいと思っています。

「富久寿大学 陶芸クラブと世代間交流について」

～ ひとりに一人ずつの未来がある。たくさんのいろいろな可能性のある子ども達に乾杯！～

富久寿大学 陶芸クラブ
部長 和田 隆二



2014年、小千谷小学校の5年生児童（137人）は、高齢者学級の富久寿大学陶芸クラブ15名と佐藤守先生を講師に招き、陶芸の皿作りで世代間交流を行いました。給食を一緒に食べながら色々な話をして、お互いの絆を深めることができました。また、参加児童全員から、心のこもった感謝の絵手紙をいただいたので一部紹介します。

- やさしく教えてくださったおかげで、とても楽しく焼き物が作れました。そして、陶芸に興味をもてました。
- お皿を作るのは、もちろん初めてで、うまく作れるかどうか、すごく心配でした。でも、陶芸クラブのみなさんが、ていねいに教えてくれたおかげで、やり方がよくわかりました。私はもっとお皿作りをしたいという気持ちになりました。

拝読して、私が陶芸で感動をおぼえた時のことを思い出しました。陶芸は特別ではなく身近なものであり誰でも始められます。子ども達に、ぬくもりある両手から、自由に形のないものから作りあげる喜び・・・世界に一つしかない満足感を味わっていただけただけで、大変うれしく思いました。

小千谷小学校では2014年～2016年の3年間、陶芸教室を開催しました。

今年は、東小千谷小学校にて、5年生児童と保護者を合わせて115人が体育館で粘土練りと成形をして、後日、楽集館で素焼き、色付け、本焼きをしました。5年目になりますが、教える私たちも、とても楽しみにしています。出来上がった作品を引渡す時に「感謝会」を開いていただき幸せな時間を過ごしました。それぞれ個性豊かな作品ばかりで素晴らしく、手に取る子ども達のキラキラ輝く瞳に無限の可能性を感じました。

昨年の夏、奇跡が起きました。

子ども達は夏休み、自分はサンデー毎日のある日、街で二人の男子中学生に会いました。あまりに楽しそうな様子なので、思わず声をかけました。中学2年生で、これから買い物に行く途中だそうです。「おじさんは？」と聞かれたので「富久寿大学の陶芸クラブに行くところだよ。」と話す。「僕たちは小学5年生の時、おじさん達から陶芸を習いました。楽しかったです。その時作った皿を大事に机の上に飾ってあります。」との事。驚くとともに、思い出の共有に感動しました。これからも、子ども達がたくさんの人と出会い、人との繋がりを大切に育ててほしいと願っています。

【青少年育成センターより】

あけまして、おめでとうございます。今年も子ども達の健やかな成長を見守っていきたいと思います。よろしくお願い致します。

